

## 元帳で相手科目を「諸口」ではなく、個別に内訳を表示させる手順

・勘定奉行 V ERP シリーズ

### 条件設定による表示の違い

[条件設定]画面で、以下の設定項目にチェックを付けます。

- ・「相手科目を個別表示する」
- ・「諸口の内訳を表示する」

条件設定の表示形式によって、設定するページが異なります。下図をご確認ください。

拡張形式の場合・・・[詳細条件]ページ

元帳 - 条件設定

基本条件 | **詳細条件** | 検索条件 1 | 検索条件 2 | 取引先

自マスター

☐ 部門・グループを指定

対象指定

☒ 部門

☐ 範囲内の部門を個別

表示設定

☐ 自マスターの情報を表示する

☐ 摘要を一行で表示する

☐ 各マスターを一行で表示する

相手科目表示設定

☒ 相手科目を個別表示する

金額が0の場合の出力設定

☒ 指定された日付範囲に

☐ 明細がなくとも、繰越

☐ 指定された範囲すべて

元帳を集計する単位を選択

標準形式の場合・・・[基本条件]ページ

元帳 - 条件設定

**基本条件** | 検索条件 1 | 検索条件 2

元帳種類

☒ 勘定元帳 ☐ 補助元帳

☐ 元帳パターン指定

☐ 取引先元帳として出力する

☐ 補助科目が登録されている勘定科目は出力しない

集計ベース

☒ 全社 ☐ 部門 ☐ 部門グループ

自マスター

部門コード

勘定科目コード

補助科目コード

取引先コード

集計期間

月範囲(I)...

2012年 1月 1日 ~ 2012年 12月 31日

表示設定

☐ 自マスターの情報を表示する

☐ 税率・税区分を表示する

☐ 部門を表示する

☐ 摘要を一行で表示する

☐ 自動計算された消費税を表示する

☒ コードを表示する

☐ 各マスターを一行で表示する

☐ 本体金額を上段に表示する

相手科目表示設定

☒ 相手科目を個別表示する

☒ 諸口の内訳を表示する

税処理

☒ 税抜 ☐ 税込

金額が0の場合の出力設定

指定された日付範囲に明細がある場合だけ出力する

相手科目が複数存在する場合に、諸口の下に括弧書きで内訳となる科目を表示します。  
**注意** 諸口の内訳となる相手科目に対する金額は表示されません。  
詳細⇒[操作説明]ボタン

「相手科目を個別表示する」「諸口の内訳を表示する」にチェックを付けた場合

集計期間	自 2012年 1月 1日 至 2012年 12月 31日				税処理	税込
勘定科目	0500 売上高					
伝票日付	(相手マスター)	(相手マスター)				
伝票No.	勘定科目		借方	貸方	残高	
	摘要					
繰越金額						0
12/01/01	0130 受取手形					
000001				10,000	10,000	
12/01/01	0135 売掛金					
000001				20,000	30,000	

「諸口」ではなく、相手勘定科目が個別に表示されます。

「相手科目を個別表示する」「諸口の内訳を表示する」にチェックを付けない場合

集計期間	自 2012年 1月 1日 至 2012年 12月 31日				税処理	税込
勘定科目	0500 売上高					
伝票日付	(相手マスター)	(相手マスター)				
伝票No.	勘定科目		借方	貸方	残高	
	摘要					
繰越金額						0
12/01/01	諸口					
000001				30,000	30,000	

諸口の内訳表示の具体例

仕訳伝票の入力形式によって、内訳の表示方法が変わります。

次ページ以降で、以下の3つのケースごとに表示方法を説明します。

A : 「1 : 1」「n : 1」「1 : n」の仕訳形式（消費税自動計算なし）

B :                    //                    (消費税自動計算あり)

### C : 「n : n」の仕訳形式

「n」は、相手科目が複数行であることを指します。

<仕訳例>

「n : 1」の仕訳形式の場合

行	借 方			貸 方		
	勘定科目 / 補助科目		金 額	勘定科目 / 補助科目		金 額
1	135	売掛金	20,000	500	売上高	30,000
					課売上 5.0%	( 1,428 )
2	130	受取手形	10,000			

「n」側（複数行）

「1」側

消費税自動計算あり

「1:1」「n:1」「1:n」の仕訳形式でも、「1」側が消費税自動計算なしの場合・ありの場合で表示方法が異なります。

詳細は、次ページ以降をご確認ください。

A : 「 1 : 1 」 「 n : 1 」 「 1 : n 」 の仕訳形式 ( 消費税自動計算なし )

「 1 : 1 」 「 n : 1 」 「 1 : n 」 の仕訳形式で、「 1 」 側 ( 下図の例の場合「当座預金」科目 ) が、消費税自動計算なしの場合には、相手科目は個別に表示されます。

<例> 「 n : 1 」 の仕訳形式

行	借 方			貸 方		
	勘定科目 / 補助科目		金 額	勘定科目 / 補助科目		金 額
1	0305	買掛金	700	0110	当座預金	1,000
2	0315	未払金	300			

消費税自動計算なし

「当座預金」の元帳は、以下のように表示されます。

勘定科目		0110	当座預金		
伝票日付	(相手マスター)	(相手マスター)		借方	貸方
伝票No.	勘定科目	摘要			
繰越金額					
12/01/02	0305	買掛金			
000004					700
12/01/02	0315	未払金			
000004					300

相手科目は個別に表示されます。

B : 「1 : 1」「n : 1」「1 : n」の仕訳形式（消費税自動計算あり）

「1 : 1」「n : 1」「1 : n」の仕訳形式でも、「1」側が「消費税自動計算あり」の場合には、「消費税自動計算なし」の場合と表示方法が異なります。

<B - 1> 「n : 1」の仕訳形式（消費税自動計算あり）

<例> 「n : 1」の仕訳形式

行	借 方		金 額	貸 方		金 額
	勘定科目 / 補助科目			勘定科目 / 補助科目		
1	135 売掛金		20,000	500 売上高	課売上 5.0%	30,000 ( 1,428)
2	130 受取手形		10,000			

消費税自動計算あり

「売上高」の元帳を税抜表示すると、以下のように表示されます。

集計期間	自 2012年 1月 1日 至 2012年 12月 31日				税処理	税抜
勘定科目	500 売上高					
伝票日付	(相手マスター)	(相手マスター)				
伝票No.	勘定科目		借方	貸方		残高
繰越金額	摘要					
12/01/01	諸口					0
000003				28,572		28,572
	135 ( 売掛金					
	130 ( 受取手形					

相手科目は個別に表示されますが、科目ごとの金額は、内訳を特定できないため、表示されません。

## ポイント

仕訳形式が「n : 1」「1 : n」であっても、「1」側が消費税自動計算ありの場合には税抜で表示すると、以下のように「n : n」と同様になります。

行	借 方		金 額	貸 方		金 額
	勘定科目 / 補助科目			勘定科目 / 補助科目		
1	135 売掛金		20,000	500 売上高	課売上 5.0%	28,572
2	130 受取手形		10,000	330 仮受消費税	課売上 5.0%	1,428

- ・「売上高」科目（28,572円）の相手科目が特定できないため、「諸口」で表示されます。  
[条件設定]画面で、「諸口の内訳を表示する」のチェックを付けると、科目名は内訳表示されます。  
なお、金額の内訳は特定できないため、金額は表示されません。
- ・元帳で税抜表示を設定している場合に限りです。  
税込表示した場合には、「n : 1」の仕訳形式のため、相手科目は個別に表示されます。

<B - 2>「1：1」の仕訳形式（消費税自動計算あり）

「1：1」の仕訳形式の場合でも、借方・貸方それぞれが消費税自動計算ありの場合で、元帳を税抜表示した際は、「諸口」で表示されます。

<例>「1：1」の仕訳形式

行	借 方			貸 方		
	勘定科目 / 補助科目	金 額		勘定科目 / 補助科目	金 額	
1	0704 接待交際費	課仕入 5.0%	1,000 ( 47)	0756 会議費	課仕入 5.0%	1,000 ( 47)

消費税自動計算あり

消費税自動計算あり

「接待交際費」の元帳を税抜表示すると、以下のように表示されます。

集計期間	自 2012年 1月 1日 至 2012年 12月 31日				税処理	税抜
勘定科目	0704 接待交際費					
伝票日付	(相手マスター)	(相手マスター)				
伝票No.	勘定科目		借方	貸方		残高
繰越金額	摘要					0
12/01/02	諸口					
000002			953			953
	0756 < 会議費					
	0182 < 仮払消費税					

相手科目は個別に表示されますが、科目ごとの金額は、内訳を特定できないため、表示されません。

## ポイント

仕訳形式が「1：1」であっても、各々が消費税自動計算ありの場合には税抜で表示すると、以下のように「n：n」と同様になります。

行	借 方			貸 方		
	勘定科目 / 補助科目	金 額		勘定科目 / 補助科目	金 額	
1	665 接待交際費	課仕入 5.0%	953	756 会議費	課仕入 5.0%	953
2	330 仮受消費税	課売上 5.0%	47	182 仮払消費税	課仕入 5.0%	47

- ・「接待交際費」科目（953円）の相手科目が特定できないため、「諸口」で表示されます。  
[条件設定]画面で、「諸口の内訳を表示する」のチェックを付けると、科目名は内訳表示されます。  
なお、金額の内訳は特定できないため、金額は表示されません。
- ・元帳で税抜表示を設定している場合に限りです。  
税込表示した場合には、「1：1」の仕訳形式のため、相手科目は「会議費」と表示されます。

## C : 「n : n」の仕訳形式の場合

「相手科目を個別表示する」のチェックの有無に関わらず、相手科目は「諸口」として元帳に表示されます。  
「諸口の内訳を表示する」のチェックを付けると、科目名は内訳表示されます。

<例> 「n : n」の仕訳形式

行	借 方			貸 方		
	勘定科目 / 補助科目	金 額		勘定科目 / 補助科目	金 額	
1	721 給料手当	890,000		111 普通預金	600,000	
2	650 旅費交通費	10,000	課仕入 5.0%	345 預り金	300,000	
		( 476				

「普通預金」の元帳は、以下のように表示されます。

集計期間	自 2012年 1月 1日 至 2012年 12月 31日				税処理	税抜
勘定科目	111 普通預金					
伝票日付	(相手マスター)	(相手マスター)				
伝票No.	勘定科目		借方	貸方	残高	
	摘要					
繰越金額						0
12/01/01	諸口					
000002				600,000		-600,000
	721 ( 給料手当					
	650 ( 旅費交通費					
	182 ( 仮払消費税					

相手科目は個別に表示されますが、  
科目ごとの金額は内訳表示されません。

「普通預金」科目（600,000円）の相手科目が特定できないため、「諸口」で表示されます。  
[条件設定]画面で「諸口の内訳を表示する」のチェックを付けると、科目名は内訳表示されます。  
なお、金額の内訳は特定できないため、金額は表示されません。

以 上